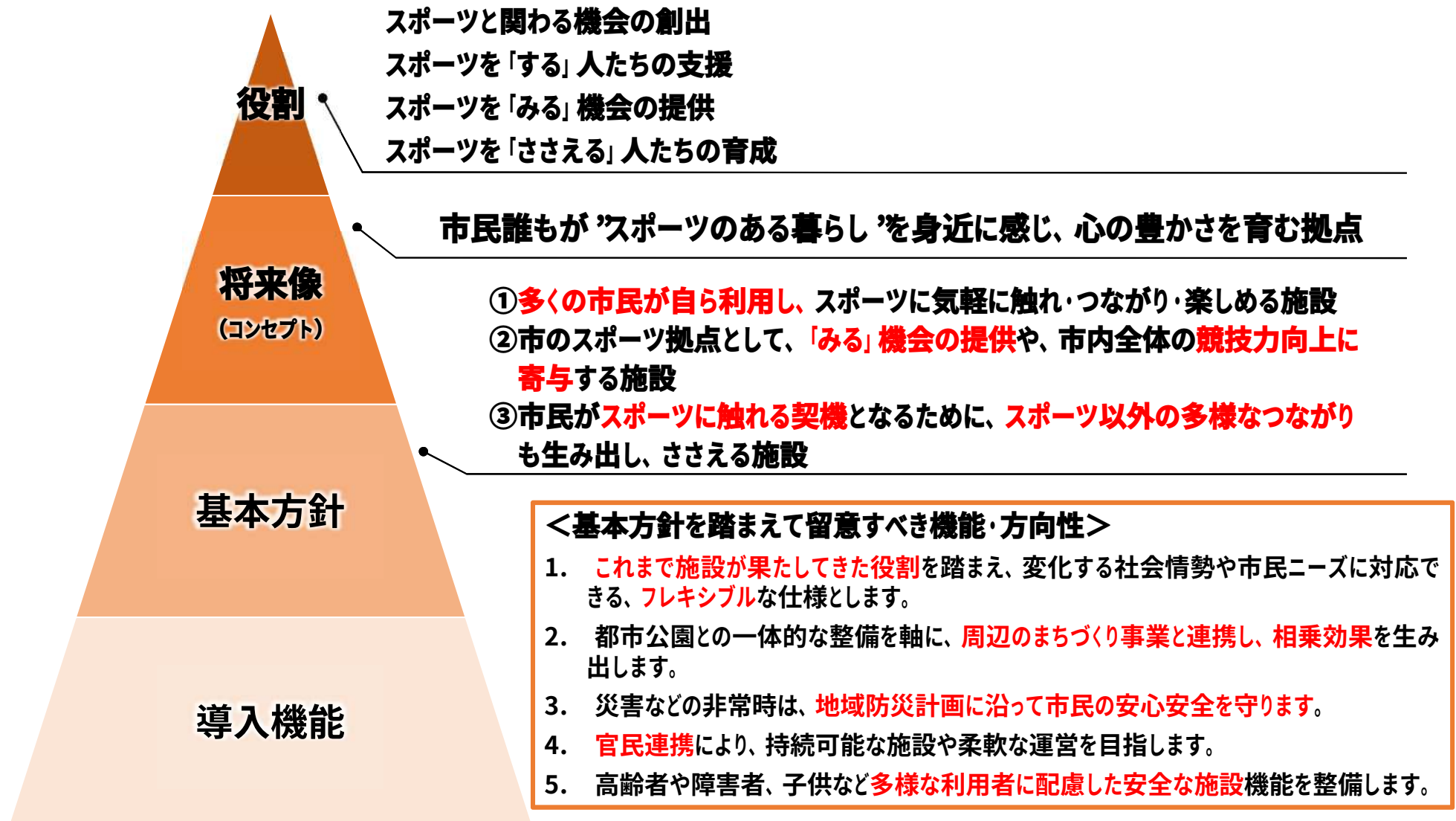


第2期戸田市スポーツ推進計画 基本理念：
「スポーツを楽しむ・ささえる・未来につなげる 戸田」



※スポーツの定義：日常生活における軽い運動、楽しみながら体を動かすこと、そして、高いレベルまでの競技を広く「スポーツ」として捉える。

戸田市スポーツセンター基本構想 これまでの議論との整理

各種アンケート

- ・ 個人で健康増進やリフレッシュを目的に運動する利用者（軽運動）の拡大 方針①
- ・ 支えるスポーツ（ボランティアなど）の環境整備 方針①
- ・ 観るスポーツの環境整備 方針①
- ・ 市民がスポーツに関わる機会の創出 方針③
- ・ 駐車場、飲食スペース、交流スペースなど関連設備の充実 方針③
- ・ 多様なスポーツを視野に入れた施設整備（⇒方向性1）
- ・ バリアフリー対応（⇒方向性5）

提言書

- ・ コンセプトが明確でわかりやすい複合施設にすること（全体）
- ・ 市民ニーズの把握に努め、外部の専門的な視点を取り入れること（外部委員、アンケート、パブコメ）
- ・ スポーツをする人もしない人も気軽に集える拠点に 方針③
- ・ 駅からアクセスしやすく地域に開かれた施設に 方針③
- ・ 避難所機能の充実を図り、災害時を想定した仕様とすること（⇒方向性3）
- ・ 平時の利用が災害時に生きる工夫を（⇒方向性3）
- ・ 民間のノウハウを活用した再整備事業をすすめること（⇒方向性4）
- ・ 長期的な視点で事業期間の設定を（⇒方向性4）

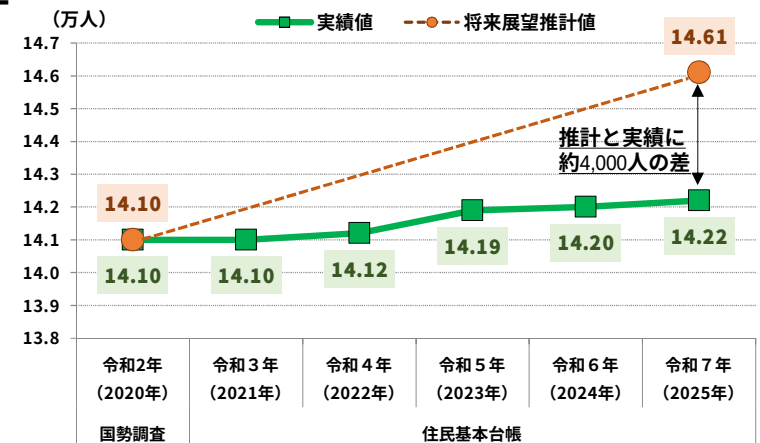
策定委員会議事録

- ・ スポセンの利用で期待する市民の姿（効果）の明確化（全体）
- ・ 様々なスポーツへの関わりを促す核となる施設 方針①
- ・ 地域での生涯スポーツ活動を支援する施設 方針①
- ・ 中学校部活動との連携 方針②
- ・ 競技力向上を求める声への対応 方針②
- ・ 家庭と仕事の両立などにより運動不足な人へのアプローチ 方針③
- ・ スポーツに関するコミュニティの醸成につながる取り組み 方針③
- ・ スポーツを核にした多目的なコンテンツの導入・地域の活性化 方針③
- ・ 新しいスポーツへの対応（⇒方向性1）
- ・ 北戸田ウォーカブルシティなど周辺事業との連携（⇒方向性2）
- ・ 市民アクセスの改善（⇒方向性2）
- ・ 近隣自治体の施設整備状況も踏まえた検討が必要（⇒方向性2）
- ・ 施設利用をなるべく止めない整備（⇒方向性4）
- ・ 事業手法（PFI）についてメリデメの検討を（⇒方向性4）
- ・ 障害者スポーツへの配慮（⇒方向性5）

【将来人口推計について】

御意見） 今後策定作業が進められるであろう「第3期戸田市スポーツ推進計画」との関係性や、将来人口推計値「年少人口・生産年齢人口・老年人口」を加味した施設整備が必要と考える。

- 第5次総合振興計画（令和3年度～）では、人口構成については、生産年齢人口（15歳～64歳）が概ね横ばいで推移する一方、年少人口（14歳以下）と老年人口（65歳以上）については増加が見込まれ、今後は、子育て支援、教育、高齢者福祉をはじめとする行政需要が増大することが想定されていた。
- 一方、第5次総合振興計画の人口推計による令和7年度の想定（146,078人）に対して、現状（142,182人）は4,000人ほど少なく、今後の見直し等で推計値が変更される可能性がある。
- 年齢階層別では、年少人口が推計値－1,561人（推計値比92%）、生産年齢人口が－1,750人（推計値比98%）、老年人口が推計値－585人（推計値比97%）となっており、特に年少人口について推計人口と実数に大きな差が生じる結果となっている。
- 上記より、今後もこれまでと同様の推移となった場合は、年少人口に比して老年人口の割合増が顕著となる可能性が高く、健康増進やウェルネス、生涯スポーツにより重点を置いた施策検討が必要となる。



出典：第2期戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2021年）を基に作成

→スポーツを軸とする様々なつながりが老年期の心身の充実に寄与することを目指し、スポーツを「する」以外にも「みる」や「ささえる」も含めたコミュニティを継続的に支援・育成する。

⇒**方針①**・**方針③**

→年少人口の減少に対しては、子育て世帯がより魅力を感じる施設を目指すことが重要であり、乳幼児期から親しまれるような遊具等の整備や、アーバンスポーツへの対応が考えられる。若年期からスポーツセンターに親しんでもらうことで、長期的には健康寿命の増進や、シビックプライドの醸成につながることも期待される。⇒**方針③**

→高齢者の施設利用を想定し、現在の施設で不足している設備等を整備する（⇒方向性5）

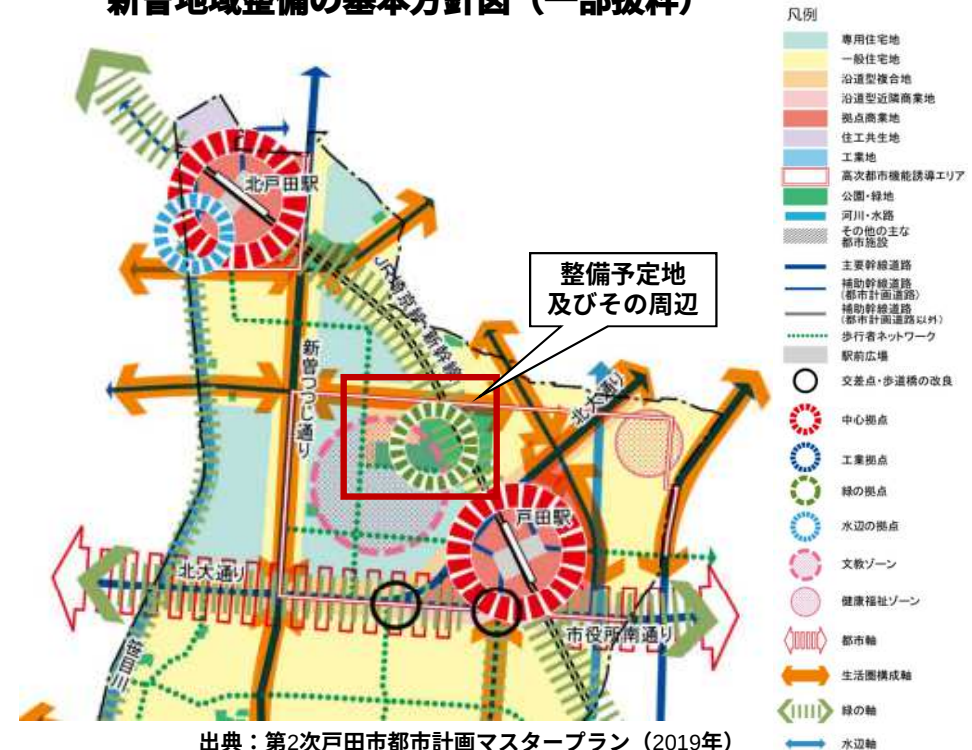
【戸田市都市マスタープラン（緑の拠点）】

御意見) 戸田市都市マスタープランでは、緑の拠点として位置づけられていることから、これらのことを配慮した記載も必要と考える。

- ・ 再整備予定面積のうち50%程度は都市公園として整備される予定である。
- ・ 埼京線東側の新曽第2区画整理地に計画されている近接する公園予定地も合わせて活用する予定であり、当該地は戸田市都市マスタープランで「緑の拠点」に位置付けられている。
- ・ 上記に加えて、次期都市マスタープランでは、当該地を、健康増進や余暇活動の中心として「スポーツ・レクリエーション拠点」に位置づける予定である。

→ ‘基本方針を踏まえて留意すべき機能・方向性’に「都市公園との一体的な整備を軸に」の文言を加え、周辺のまちづくりと連動した整備を進める。(⇒方向性2)

新曽地域整備の基本方針図（一部抜粋）



出典：第2次戸田市都市計画マスタープラン（2019年）

【導入機能・施設検討の基本的な考え方】

既存施設の機能の維持・継続を前提に、更なる機能の発展・充実や、最適化、効率化などの視点を含めた検討を行う。

スポーツセンターの主な施設		主な論点
屋内	1. 第1競技場・第2競技場 (観客席・ランニングコース・選手控室)	面数・観客席数・選手控室などの諸室のあり方
	2. 第1武道場(柔道場)・ 第2武道場(剣道場)	規模と多目的利用のあり方(畳の取り扱い等)
	3. トレーニング室	規模、導入機能の種類等
	4. 第3競技場(卓球場)	規模と多目的利用のあり方
	5. 会議室	多目的利用のあり方・市のスポーツ振興を支える機能の追加
	6. 第3武道場(弓道場)	規模・整備場所
	7. 屋内プール	— (※既存施設を維持する)
屋外	8. 陸上競技場	規模・利用のあり方
	9. テニスコート	規模(面数)
	10. 駐車場	台数、構造、整備場所、料金設定等

次回委員会での検討事項(案)：上記以外の施設機能について

スポーツ機能(器械体操、アーバンスポーツ、相撲など)、スポーツ以外の機能(コミュニティ・交流など)、屋上、公園 など

再整備の方向性検討

施設		現状・課題	方向性（案）
屋内	1. 第1競技場 第2競技場	- 予約が取りにくいという声が多くあがり、アリーナ施設が不足していると感じている市民も多い。 「観るスポーツ」に特化したアリーナは、競技面積より観客席の充実が求められるが、可動席で臨時的に対応するなど、「する」と「観る」を両立している施設もある。 - 現施設は、床面積の割りにコート面数を十分に確保できない形状となっている。	- 市民の利用を主な目的とした施設として整備。 - 多目的な利用を前提に、メインアリーナのほかサブアリーナを整備。 - 現在の競技面積と同程度の規模とし、利用シーンを想定しながら、効率的・効果的な形状・観客席等を検討していく。
	2. 第1武道場（柔道場） 第2武道場（剣道場）	- 公営の柔道場・剣道場（学校の武道場や民間道場等除く）は、スポーツセンターのみ。 - 整備水準は、全国・埼玉県と比較してほぼ同程度。	- 現状と同様にそれぞれ1施設ずつ整備。 - 柔道場の畳は常設とし、武道以外の畳の上で行う活動の利用増進を図ることで、利用率をあげる。
	3. トレーニング室	- 公営のトレーニングルームの施設数は、周辺自治体に比べてやや少ない。 - 一方、人口当たりの民間スポーツジムの数は周辺自治体の中で最も多い。 - 市民アンケートでは、不足していると思う施設について「トレーニングルーム」が最も多い。 - 民間フィットネスジムが数多く立地しており、民業圧迫にならないような配慮も必要。	- 民間トレーニング施設の増加も踏まえ、スポーツセンターに大規模な施設を集約して整備することの効果は、あまり高くないと考えられる。 - 再整備にあたっては、民間施設も含めた地域バランスを考えて、スポーツセンターにおいては現在と同規模程度の施設とする。 - 導入する機器等は、健康寿命延伸につながるよう、利用者層（年代や目的等）を考慮して選択していく。
	4. 第3競技場（卓球場）	- 現在、12台の卓球台が常設されている。 - 他自治体では、卓球専用ではなく多目的に利用できる多目的ルームとして整備している施設も多い。 - 今後行いたいスポーツとして、特に小中学生から、卓球が多くあげられている。	卓球以外にも多目的な利用が可能な多目的ルームを整備。
	5. 会議室	- 現在、大小2つの会議室が整備されているが、使い勝手の面で課題がある。 - スポーツ関連団体の事務機能を、控室をシェアしながら置いている状況。	- 様々な規模で多様な利用が可能な仕様とする。（間仕切り設置、大会開催時の控室利用など） - オープンなコミュニティスペースの整備も含めて検討していく。
	6. 第3武道場（弓道場）	- 公営の弓道場の施設数水準は、埼玉県内や10～20万人規模の自治体と同程度。 - 人口規模に比した弓道連盟登録者数も埼玉県内の平均とほぼ同程度。 - 弓道の大会は、団体戦が3人立or5人立、個人戦は3人立で行われることが多い。	施設としての機能を維持しつつ、規模（3人or5人）や、整備場所（別棟とするか、メイン棟内に整備するかなど）については、市弓道連盟とも協議し、検討していく。
屋外	7. 陸上競技場	400mトラックの整備を望む声がスポーツ関連団体からあがっている。 - 現在行っている・今後行いたいスポーツとして、ウォーキングやランニングのニーズが高い。 - 公認を取得した場合、管理上の面で柵の設置や利用者の制限等が必要と考えられる。	400m公認（4種ライト）を軸に、今後関係団体等へのヒアリングや、利用想定、その他施設との兼ね合いも含めて検討していく。
	8. テニスコート	公営のテニスコートの面数の整備水準は、周辺自治体と比べて高い方であるが、埼玉県全体の平均と比べるとやや少ない。	- 現況の6面を維持する。 - サーフェス素材については、施設管理者等とも協議し、検討していく。
その他	9. 駐車場	- 大会開催時などは、臨時駐車場を含めても駐車スペースが足りないという意見があがっている。 - 現在駐車料金は無料となっているが、周辺自治体では有料としている施設も多い。 - 立体駐車場とする場合は、用途制限により2階以下にする必要がある。	- ヒアリングなどを行い、必要な駐車台数を今後検討していく。 - 整備場所・仕様等については、自走式立体駐車場（2層）や、環境空間・高架下などの活用も含めて今後検討していく。 - 受益者負担の観点から、駐車料金の設定についても今後検討していく。

- ・第1競技場のあるゲーム棟の利用者数は、年間4万人程度となっている（新型コロナウイルス感染症拡大時を除く）。
- ・第1競技場の収入割合は、全体の約9%であり、プール、テニスコートに次いで3番目に多い。

＜施設利用について＞

- ・第1競技場の施設利用については、以下のとおりとなっている。

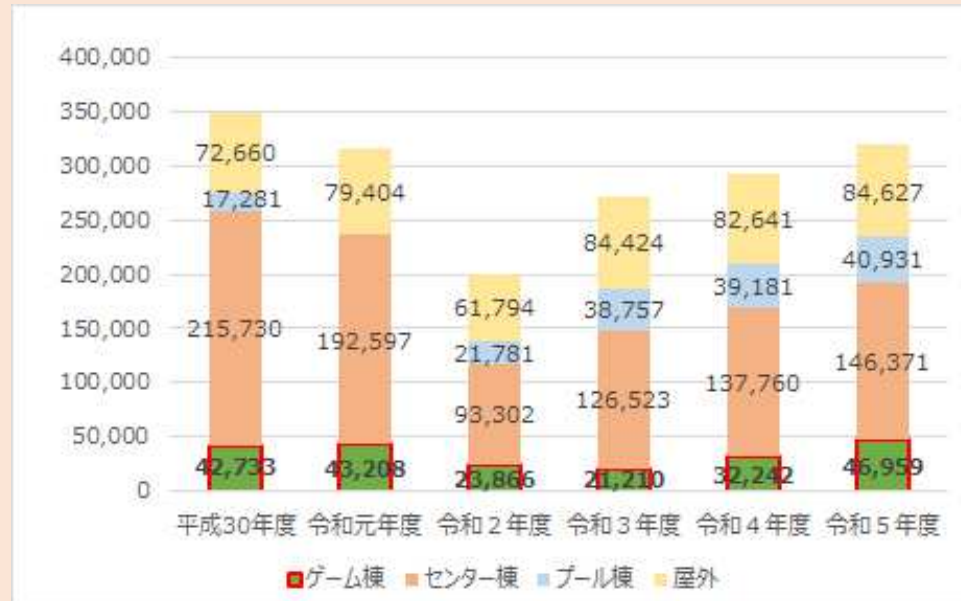
利用時間：09:00～21:00

使用料：全面（アマチュアの体育スポーツ及びレクリエーションに使用する場合/一般・学生）

…市内3,960円・市外5,940円/2時間（別途、児童・生徒利用、その他の利用、コート利用の料金設定あり）

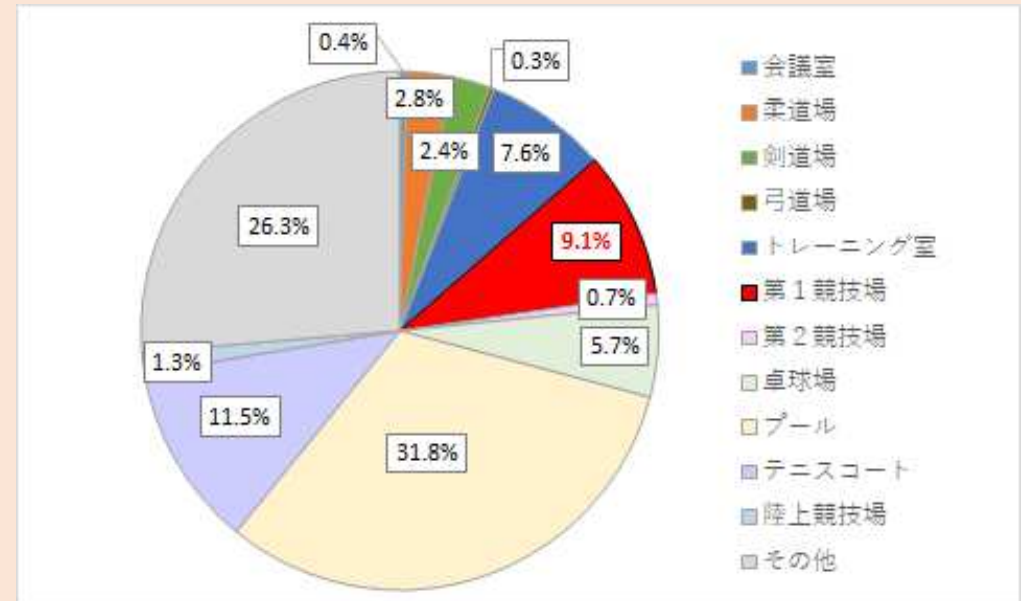
照明料…900円/1時間 冷房料…7,530円/1時間 暖房料…7,000円/1時間

＜施設利用者数＞



【年度別施設利用者数】

＜スポーツセンター全体の施設利用収入割合＞



【R5年度の収入における施設別の内訳】

ニーズ1

- ・現在のアリーナについて、予約が取りにくいという声が多くあがっている。
- ・アリーナ施設が不足していると感じている市民も多く、個人利用など、利用の仕方についての要望もあがっている。
- ・今後やってみたいスポーツとして、特に子どもたちからバドミントンやドッジボールなどの要望が高い。
- ・プロスポーツの開催に関する要望もあがっている。

市民アンケート（18歳以上）の結果（回答数756）

●スポーツセンターの利用に関するニーズ

「スポーツセンターでどのようなことがしたいか」という質問に対して、以下を最も求めると回答する人が多かった。（n=756）

- ・「健康のため自分のペースで運動する」…238人
- ・「気分転換・リフレッシュのために運動する」…124人
- ・「競技力向上のために練習・トレーニングする」…80人

●屋内施設に関する自由記述（スポーツセンター以外の要望を含む）

- ・屋内施設（アリーナ等）増の要望…2人
- ・アリーナの個人利用への要望…3人
- ・利用時間の要望…3人
- ・プロスポーツの実施に関する要望…2人

●体育館に関する結果

- ・過去1年間で行ったスポーツ（複数回答可・n=480）
「バドミントン」…33人
「バレーボール・ソフトバレーボール」…12人
「バスケットボール・3×3」…12人
- ・第1競技場の利用状況(n=365)
「週に数回」または「月に数回」…1%
「年に数回」または「数年に1回」…27%
- ・市内公共施設の数への質問で、「不足している」と回答した人のうち、「体育館が不足している」と回答した人は61人（n=187）
- ・今後やってみたいスポーツ（複数回答可・n=756）
「バドミントン」…83人
「バスケットボール・3×3」…36人
「バレーボール・ソフトバレーボール」…35人

小学生アンケートの結果（回答数538）

●アリーナ種目に関する結果

- 小学生アンケートで現在のクラブ活動・習い事についてアリーナを使用する種目（バスケ・バレー・バドミントン・ドッジボール）を回答したのは133人（複数回答可・n=743）
- 今後やってみたいスポーツ（複数回答可・n=1,663）
「バドミントン」…125人
「ドッジボール」…93人
「バスケットボール・3×3」…80人
「バレーボール・ソフトバレーボール」…69人

中学生アンケートの結果（回答数449）

●アリーナ種目に関する結果

- 中学生アンケートで現在の部活動・習い事についてアリーナを使用する種目（バスケ・バレー・バドミントン）を回答したのは98人（複数回答可・n=438）
- 今後やってみたいスポーツ（複数回答可・n=1,596）
「バドミントン」…109人
「バレーボール・ソフトバレーボール」…80人
「ドッジボール」…67人
「バスケットボール・3×3」…43人

利用者アンケートの結果（回答数476）

- 第1競技場の利用状況(n=476)**
「週に数回」または「月に数回」…12%
「年に数回」または「数年に1回」…29%
- 自由意見**
空調などの設備への要望、個人利用への要望、プロスポーツ・イベント開催の要望

団体アンケート結果

●体育館に関する要望があった団体とその内容

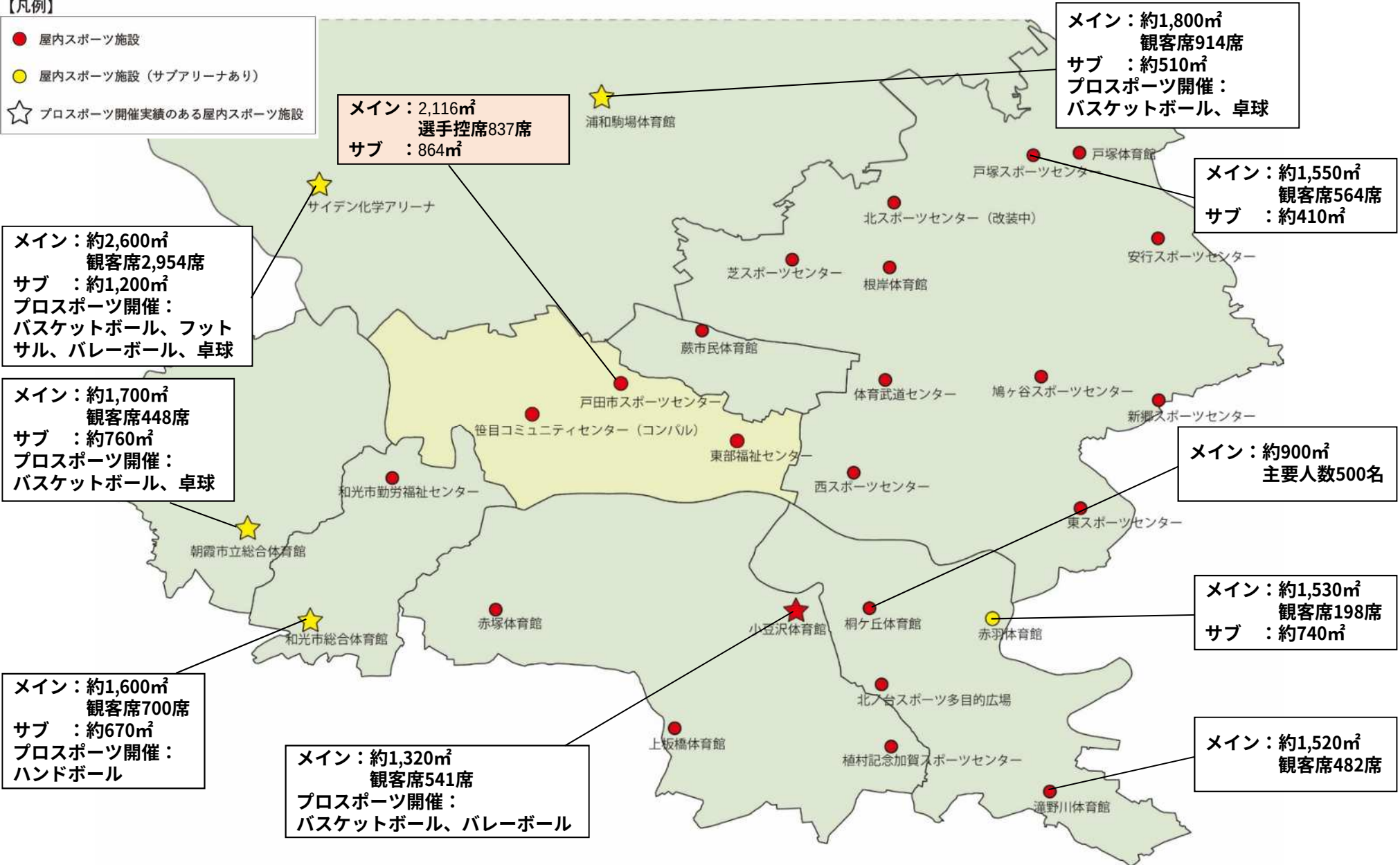
- 床の強度や観覧席の確保
- 防球・仕切りネットの設置
- 第3競技場の整備
- 卓球台・トレーニングルーム等の充実

- 大人のサッカーやフットサルができるようにしてほしい
- 移動式バスケットゴールを設置するのが大変なので違う方式（壁面設置や天井つり）にしてほしい
- 天井が高いせいか、特に隅に行くと照明が暗く感じられるのもっと明るくしてほしい
- 2階に行くエレベーターがほしい（障がい者や高齢者のため）
- 陸上競技場とトイレや倉庫をわけてほしい（導線がぶつからないようにしてほしい）

周辺自治体のアリーナ（体育館）整備状況（公共スポーツ施設）

【凡例】

- 屋内スポーツ施設
- 屋内スポーツ施設（サブアリーナあり）
- ☆ プロスポーツ開催実績のある屋内スポーツ施設



プロリーグ規格について

- ・ ‘観るスポーツ’を目的としたアリーナは、競技面積よりも観客席に面積が必要となる。
- ・ プロスポーツ開催時に可動席を設置するなどして、臨時的に対応している施設も多い。

- ・ 戸田市スポーツセンターは市民の競技力向上や健康増進等への寄与が求められている。
- ・ 現時点で市民利用のアリーナが不足しているという声も上がっている。
- ・ 現在、戸田市をホームタウンとする屋内プロスポーツ競技はない。
- ・ プロスポーツに対応した施設とするには、観客席のほか、設備等の整備が必要であり、多額の費用が必要となる。
- ・ ‘観るスポーツ’に対応したアリーナは、プロスポーツ以外の利用として、コンサート等興行での利用が多い。

リーグ名	定員に関する規定
Bリーグ※ (バスケットボール)	B1リーグ：5,000席以上 B2リーグ：3,000席以上
SV/Vリーグ (バレーボール)	SVリーグ：3,000席以上 (2030年から5,000席以上) Vリーグ：750席以上 (2030年から2,000席以上)
Fリーグ (フットサル)	Fリーグ・ディビジョン1：1,000席以上 Fリーグ・ディビジョン2：1,000席以上
Tリーグ (卓球)	規定なし

※2026年度からB1リーグは「Bリーグ・プレミア」、B2リーグは「Bリーグ・ネクスト」に、それぞれ名称変更予定。

リーグ名	ホームタウンとホームアリーナ
Bリーグ	●さいたまブロンコス（さいたま市、所沢市） ホームアリーナ：浦和駒場体育館（アリーナ面積：1,795㎡、観客席：1,374席（内、ロールバック460席）） ●越谷アルファーズ（越谷市） ホームアリーナ：越谷市立総合体育館（アリーナ面積：2,560㎡、観客席：4,472席（内、ロールバック2,200席））
Vリーグ	●埼玉アザレア（川越市） ホームアリーナ：川越運動公園総合体育館（アリーナ面積：2,537.45㎡、観客席：2,272席（固定976席、可動式1,296席）） ●埼玉上尾メディックス（上尾市） ホームアリーナ：上尾市民体育館（アリーナ面積：1,856㎡、観客席：743席）

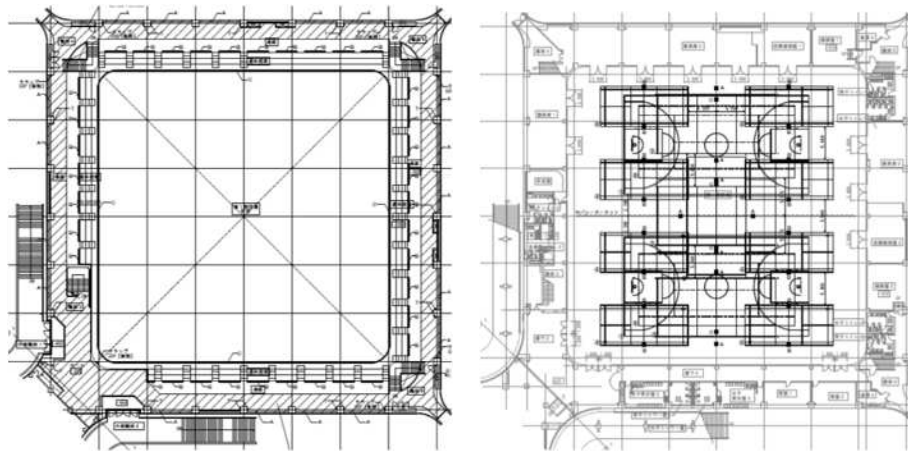
施設規模・仕様に関する比較検討

	戸田市スポーツセンター	中野区立総合体育館	墨田区総合体育館	参考) 太田アリーナ (群馬県)
面積	2,116㎡	1,750㎡	2,166㎡	2,140㎡
天井高	14m	17m	13m	12.5m
規模等	バスケットボール2面 バレーボール2面 バドミントン8面	バスケットボール2面 バレーボール2面 バドミントン8面	バスケットボール3面 バレーボール3面 バドミントン12面	バスケットボール3面 (国際基準センターコート1面) バレーボール3面 (国際基準センターコート1面) バドミントン12面
観客席 (固定)	837席	アリーナ：120席 2階席：684席	1,500席 (固定)	約5,000席
ランニング コース	200m	約190m	260m	—
利用料	団体利用 (全面) : 市内3,960円・市外5,940円/ 2時間 (照明・冷暖房費別/ コート単位、児童・生徒利用、 その他利用料金あり)	個人利用 (大人) : 200円/2時間 団体利用 (全面) : 10,300円~14,300円/1.75~ 2時間 (曜日・時間帯により 料金が異なる/長時間利用料金 あり)	個人利用 (大人) : 550円/2時間 団体利用 (全面) : 19,800円~52,800円/2.5~3 時間 (曜日・時間帯、区民・ 区外団体により料金が異なる)	団体利用 (全面) : 市内4,800円・市外は市内料金 の1.5倍/1時間 (照明使用料 別)、コート単位、その他利 用料金あり
市民利用以 外での主な 利用実績		Vリーグ 学校の運動会 等	Fリーグ、ハンドボール、ボク シング、パワーリフティング、 プロレス 学校の運動会 等	Bリーグ (群馬クレインサン ダーズホームゲーム)、大相 撲春巡業、e-スポーツ、学校 の運動会 等

プロリーグ規格について

【参考】

- ・ 太田アリーナと戸田市スポーツセンターのアリーナ面積はほぼ同規模であり、戸田市スポーツセンターにおいても、可動席や臨時席などを用いることで、アリーナ内に相当数の観客席を設置することが可能と考えられる。

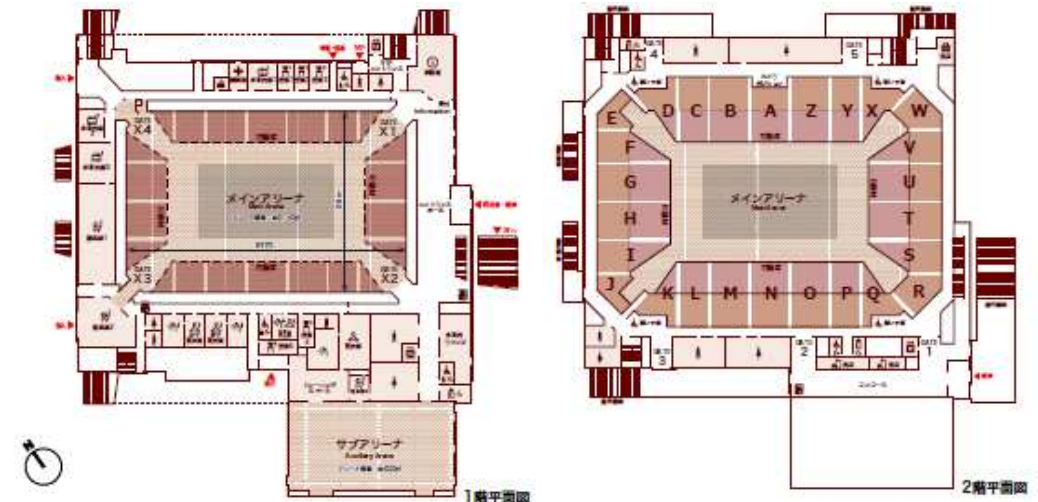


【戸田市スポーツセンター】

観客席：約837席

【内訳】

- ・ 2階席：837席（選手控席）



【太田アリーナ】

観客席：約5,000席

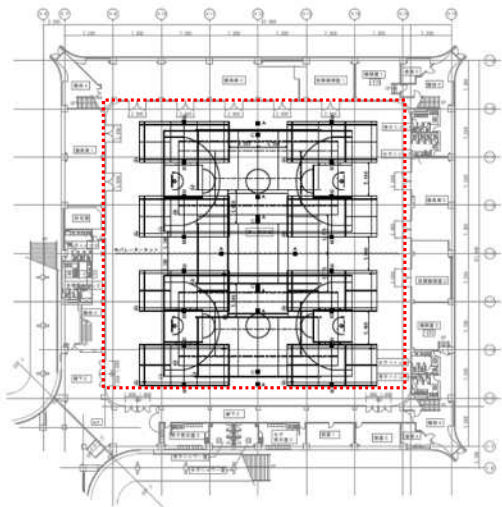
【内訳】

- ・ 1階：2,046席（スタッキング席含む）
- ・ 2階：2,852席（車椅子席、立見席含む）
- ・ 3階：129席（BOX・スイートラウンジ）

出典：太田市HP

施設規模・仕様に関する比較検討

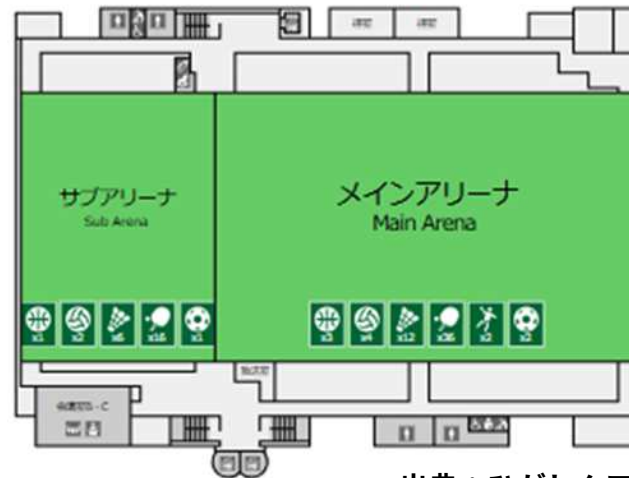
- 現在の戸田スポーツセンターの第1競技場は施設の形状から、床面積の割りにコート面数を十分に確保できない状態となっている。
- また、メインアリーナとサブアリーナを一体利用できる仕様としている事例もあり、それぞれメリット・デメリットを考慮しながら、戸田市に適切な仕様や配置・形状を検討していく必要がある。



【戸田市スポーツセンター】

メインアリーナ：46m×46m (2,116㎡)

- バスケットボール (2面)
- バレーボール (2面)
- バドミントン (8面)
- テニスコート (2面)



出典：ひがしんアリーナ
(墨田区総合体育館) HP

【墨田区総合体育館】

メインアリーナ：57m×38m (2,166㎡)

- バスケットボール (3面)
- バレーボール (3面)
- バドミントン (12面)
- 卓球 (36面)
- フットサル、ハンドボール

サブアリーナ：24m×38m (912㎡)

可動式間仕切りをとることで81×38mの大規模なアリーナとして利用することが可能

施設規模・仕様に関する比較検討

◆形状に関するメリット・デメリット

正方形型（現スポーツセンター）

【メリット】

- ・コート外に余裕があるため、選手控えなど大会利等で利用しやすい。
- ・コート外に余裕があるため、車いすなどを置く必要のあるパラスポーツなどには使用しやすい。

【デメリット】

- ・床面積のわりにコート数がとれず、日常利用や複数面での大会などの利用は非効率的。

長方形型（墨田区総合体育館等）

【メリット】

- ・コート数が最大限とれるため、日常利用において効率的に使用できる。
- ・コート数が最大限とれるため、複数面で同時開催する大会等での利用が行いやすい。

【デメリット】

- ・アリーナのサイズによっては、コートを最大限とった場合にコート外のスペースが少なく、大会の運営等がしにくい恐れがある。

◆仕様・配置に関するメリット・デメリット

メイン・サブ分離型（現スポーツセンター）

【メリット】

- ・音響などの面で、それぞれの互いに配慮することなく利用ができる。
- ・それぞれのアリーナで異なる大会等の同時利用が可能。

【デメリット】

- ・メインアリーナ以上の大規模空間が必要な用途での利用ができない。
- ・両アリーナの配置によっては、メインアリーナとサブアリーナを両方使用する大会等において動線が複雑になる可能性がある。

メイン・サブ一体型（墨田区総合体育館等）

【メリット】

- ・より大きなアリーナ空間となるため、新たな違う用途が検討できる。
- ・メインアリーナとサブアリーナを両方使用する大会等において動線がスムーズになる。

【デメリット】

- ・それぞれで使用する際に音漏れなどの懸念が考えられる。
- ・間仕切りをとるために時間や人員が必要となる。
- ・新たな利用や一体利用のための準備等で、その他の利用に影響を及ぼす可能性がある。
- ・それぞれのアリーナで異なる大会等の同時利用を行った際に、動線が混線する可能性がある。

施設規模・仕様に関する比較検討

- ・現在の第1競技場は各競技連盟主催の大会や、少年団の交流大会、市主催のシルバースポーツ大会などに利用されている。
- ・利用者が200人を超える大会等は、過去3年を見ても30件程度は行われており、年々増加傾向にある。また、1,000人近くの利用者となる大会等も年に複数回行われているため、今後、関係団体へのヒアリング等で必要観客席数を把握していく。

種目等	大会名	利用者数	年度	件数	主な利用種目等
卓球	戸田オープン中学生卓球大会（団体戦）	530人	R 4	2 7	卓球、空手、新体操、剣道、バレーボール、ドッチボール、レクリエーション、カルタ、学校式典等 （最大利用者数：900人※）
バレーボール	混合バレー大会兼市民体育祭	250人			
剣道	埼玉県道場少年剣道大会	700人			
バドミントン	戸田市団体戦バドミントン大会	140人	R 5	2 9	卓球、空手、新体操、剣道、バレーボール、少林寺拳法、テコンドー、バスケットボール、ドッチビー、ダンス、レクリエーション、運動会、カルタ 等 （最大利用者数：1,300人※）
太極拳	埼玉県武術太極拳選手権大会	350人			
ソフトバレーボール	レクリエーション種目別大会	200人			
空手	春季全日本空手道選手権大会	600人	R 6	5 6	卓球、空手、剣道、バレーボール、テコンドー、太極拳、ミニバスケットボール、ソフトバレーボール、ドッチビー、バドミントン、ダンス、チアダンス、レクリエーション、運動会、カルタ 等 （最大利用者数：800人）
スポーツ少年団	ドッチビー交流大会	350人			
子ども会	戸子連スポーツ大会	500人			
長寿介護課	戸田市シルバースポーツ大会	800人			

※柔道場もあわせて利用

【第1競技場で開催された主な大会等（令和6年度）】

【第1競技場で過去3年間に開催された利用者数200人以上の大会等と最大利用者数】

アリーナ整備の方向性についての検討（まとめ）

アリーナ（メイン・サブ）の整備方針

これまでの議論や市民意識アンケート、団体ヒアリング等の結果を踏まえて、基本方針及び留意すべき方向性に沿った検討を行い、アリーナ（メイン・サブ）の整備にあたっては以下の方向性で進めることとする。

- ・スポーツセンターに求められる役割として、市民の競技力向上や健康増進など、市民の利用を主な目的とした施設として、規模、観客席等を設定することとする。

⇒観るスポーツを主な目的とした仕様にはしない

- ・観客席は、市内での大会開催時に必要な席数を固定席で確保することとし、必要に応じて可動席で対応することで、プロスポーツの開催も可能となる仕様とすることが望ましいと考えられる。

⇒ホームアリーナとしての使用は想定しないが、可動席等でプロスポーツにも対応できる仕様とする

- ・練習利用等では、多くの団体が多様な種目を利用できるよう、また、大会開催時等はアップや控えなど運用がしやすく、あわせて市民利用可能な屋内施設を確保できるよう、メインアリーナ（バスケットコート2面・バレーボールコート3面）＋サブアリーナ（バスケットコート1面程度）の規模が望ましいと考えられる。

⇒多目的に利用可能なアリーナ（メイン・サブ）を整備し、できるだけ面数確保、同時利用などが可能な仕様とする

- 1．柔剣道場
- 2．トレーニング室
- 3．会議室（フレキシブルな活用）
- 4．弓道場
- 5．陸上競技場
- 6．テニスコート
- 7．駐車場

1. 柔剣道場

【現状】

- ・ 市内には、学校の武道場や民間の道場の他に公共の有する柔道場、剣道場はスポーツセンターの1施設のみ。
- ・ 整備水準は、全国・埼玉県と比してもほぼ同程度。

【方向性（案）】

- ・ よって、現状と同様にそれぞれ1施設ずつ整備することが望ましいと考える。
- ・ 論点は、柔道場の畳を出し入れ可能なものとして、板の間として利用を可能とするかどうかであるとする。
- ・ 柔道場・剣道場以外に多目的に利用できる施設を用意できれば、柔道場を多目的な施設とせずに、畳の上で行う活動による利用増を図っていくことも方策の一つと考える。（柔道・合気道等の武道以外の利用：高齢者の健康教室、母子の運動教室等）

区分	人口	柔道場公共施設（学校除く）		剣道場		柔剣道（武道）場	
		施設数	10万人当たり	施設数	10万人当たり	施設数	10万人当たり
全国	126,654,244	813	0.64	699	0.50	1,115	0.88
埼玉県	7,393,849	46	0.62	43	0.58	35	0.47
戸田市	141,033	1	0.71	1	0.71	—	—
10～20万人自治体	152自治体 21,091,350	123	0.58	110	0.52	48	0.22
さいたま市	1,324,589	7	0.53	7	0.53	—	—
川口市	607,373	2	0.33	2	0.33	—	—
朝霞市	143,195	2	1.4	2	1.4	—	—
和光市	84,161	1	1.1	1	1.1	—	—
蕨市	75,749	1	1.3	1	1.3	—	—
志木市	76,457	1	1.3	2	2.6	—	—

※朝霞市では、市立武道館の工事中に朝霞台中学校の武道場を市民に公開していた。

出典：体育スポーツ施設現況調査（2021年度）より

2. トレーニング室

【現状】

- 公営のトレーニング室の人口あたりの数としては、戸田市は近隣自治体に比べてやや少ないが、近隣自治体のトレーニング室は100～300㎡程度であり、面積としては戸田スポーツセンターは比較的広い。
- 一方で、人口あたりの民間スポーツジムの数は周辺自治体の中で最も多い状況。民業圧迫とならないような配慮も必要。
- 市民アンケートでは戸田市の公共スポーツ施設（学校体育施設は除く）で不足していると思う施設について、トレーニング室が最も多い回答となっている。

【方向性（案）】

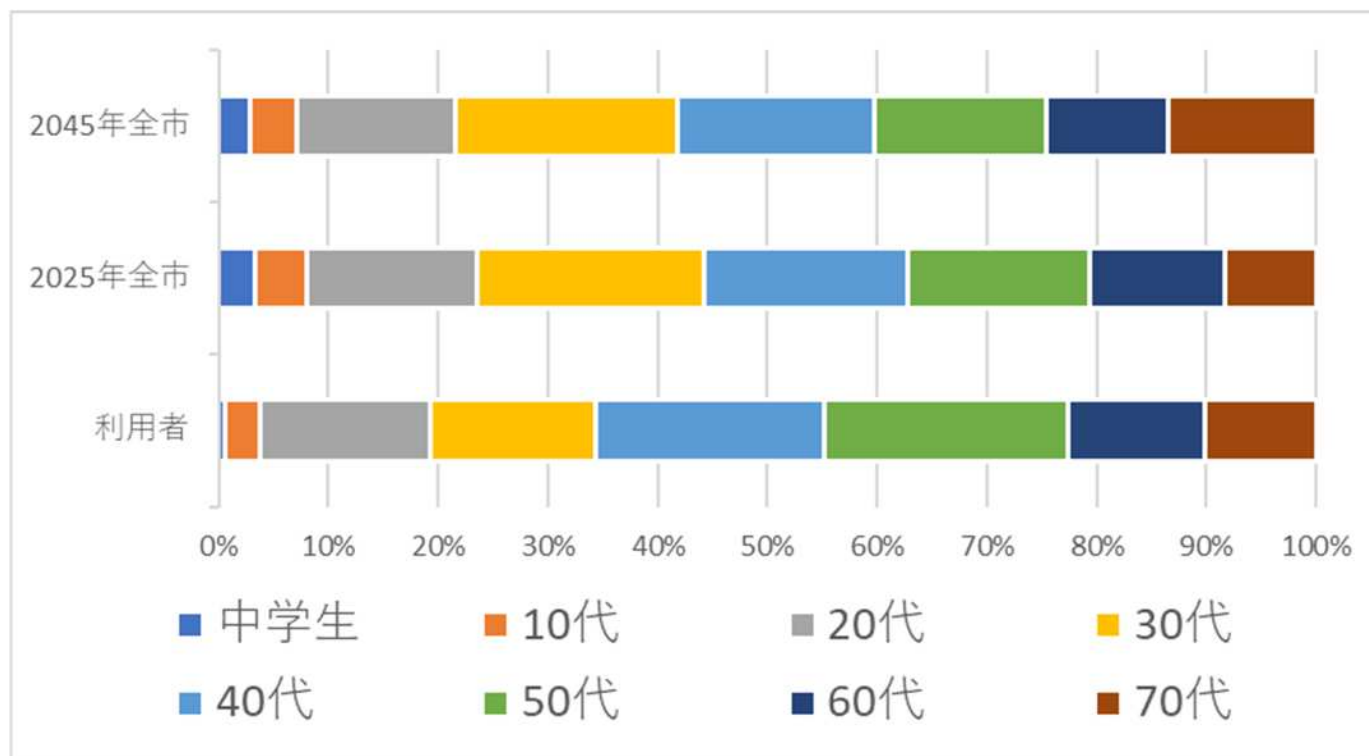
- 民間トレーニング施設が市内に多くあることを踏まえ、必ずしもスポーツセンターにトレーニング機能を集約することが望ましいとは限らない。
- 再整備にあたっては、民間施設も含めた地域バランスを考えて、公共施設としてスポーツセンターにおいては現在と同規模程度の施設とする。
- 導入する機器等は、健康寿命延伸につながるよう、利用者層（年代や目的等）を考慮して選択していく。

区分	公共施設（学校除く）			学校		民間（県内市の施設数は現時点）	
	施設数	人口	10万人当たり	小学校～高校・専修	大学・高専等	施設数	10万人当たり
全国	1,977	126,654,244	1.6	2,032	636	6,427	5.1
埼玉県	80	7,393,849	1.1	119	43	253	3.4
戸田市	1	141,033	0.7	不明	不明	14	9.9
10～20万人自治体	302	152自治体 21,091,350	1.4	364	120	—	—
さいたま市	8	1,324,589	0.6	—	—	61	4.6
川口市	8	607,373	1.4	—	—	24	3.9
朝霞市	2	143,195	1.4	—	—	13	9.1
和光市	1	84,161	1.2	—	—	8	9.5
蕨市	1	75,749	1.3	—	—	6	7.9
志木市	1	76,457	1.3	—	—	5	6.5

出典：体育スポーツ施設現況調査（2021年度）より

2. トレーニング室

- 図は、2025年時点と2045年の戸田市民の年代別人口構成（2045年は推定値）を示す。
- 現在のスポーツセンターのトレーニング室の利用者層は、市民の年齢構成に比して、30代の利用割合がやや少なく、40代以上の利用割合が高い傾向にある。
- 人口推計では、今後50代以上の割合が増えていくものと予想されていることから、トレーニング室の需要は今までよりも高まっていくことが推察される。



3. 会議室（フレキシブルな活用）

公共施設にオープンなコミュニティスペースを用意することで期待されるメリット

1. 地域活性化

地域住民が集まりやすい場所として、コミュニティ形成を促進する役割も果たし、その結果、イベントや各種取組を協力して行い、地域が活性化していくことが期待される。

2. コミュニティ形成

市民活動や団体が一つの場所に集まることで、地域住民がお互いにつながり、課題を共有し、地域の発展につながるような社会関係を形成することが期待できる。

3. フレキシブルな働き方の支援

Wi-Fiなどのネット環境を整備することで、自宅以外の場所で仕事ができる場所として、時間や場所に縛られない柔軟な働き方をする人々の活用などが見込まれる。団体やサークルのメンバーが、柔軟なライフスタイルを取れることで、活動にも参加しやすくなることが期待される。

4. 資源の有効活用

施設設備の共有化により、資源の有効活用を図ることが期待される。

5. 公平性

公共施設の共有化は、誰もが利用できる公平性が担保されており、公正な利用が可能となる。

6. 市民参加型の施策の増加

市民参加型の施策が増加し、多様な人々を呼び込み、地域経済の活性化を図ることも期待される

【事例】

東京都品川区「西大井創業支援センター」
千葉県旭市「多世代交流施設おひさまテラス」
北海道空知郡中富良野町「まちなかオフィス」
福島県双葉郡大熊町「link（リンク）る大熊」
福井県敦賀市「オルパーク」

石川県かほくし「かほっくる」
徳島県徳島市「まちづくり協働プラザ」
鳥取県境港市「みなとテラス」
愛知県一宮市「一宮市市民活動支援センター」
奈良県奈良市「BONCHI（ボンチ）」

4. 弓道場

【現状】

- ・ 戸田市の弓道場の施設数水準は、埼玉県内や10～20万人規模の自治体とほぼ同程度。（施設数のみで「立ち数」ではない）
- ・ 弓道連盟登録者数は57名。人口10万人あたりに換算すると約40人となり、埼玉県内の平均とほぼ同程度。

【方向性（案）】

- ・ 弓道の大会は団体戦が3人立または5人立で行われ、個人戦では3人立で行われることが多い。
- ・ スポーツセンターの弓道場は、現在3人立であり、弓道連盟登録者数が多い朝霞市の弓道場は6人立、朝霞市では5人立と比較的大きな規模の施設となっている。
- ・ 再整備にあたり3人立とするか5人立とするか、市弓道連盟とも協議するとともに、設置場所のスペースなどを考慮していく必要がある。

区分	公共施設（学校除く）			弓道連盟登録者数		
	施設数	人口	10万人当たり	一般	10万人当たり	中学・高校・大学
全国	1,085	126,654,244	0.86	39,430	31.3	97,696
埼玉県	53	7,393,849	0.72	3,227	43.7	5,959
戸田市	1	141,033	0.71	57	40.4	—
10～20万人自治体	160	152自治体 21,091,350	0.76	—	—	—
さいたま市	5 (与野高含む)	1,324,589	0.38	568	43.0	—
川口市	2	607,373	0.33	102	16.7	—
朝霞市	1	143,195	0.71	127	88.8	—
和光市	1	84,161	1.2	45	53.6	—
蕨市	1	75,749	1.3	55	72.7	—
志木市	1	76,457	1.3	71	93.4	—

出典：体育スポーツ施設現況調査（2021年度）より

5. 陸上競技場（追加補足資料）

陸上競技場の公認・非公認による費用の比較

	4種	4種ライト	非公認
400mトラック	共通		
インフィールド（サッカー 対応のため人工芝を想定）	投擲対応型人工芝	投擲非対応でも可	
	約1億5千万円	約1億1千万円	
電気計時	無くても可		
	整備する場合	機器類の設備費・施工費 計時室（20～25㎡）	1,500～2,500万程度 1,000万（通常管理棟・スタンド内に配置）
ハンマー・円盤投げ・やり 投げ施設・設備	必要	無くても可	
	約1,000万円	—	
棒高跳び施設・設備	必要	無くても可	
	約700万円	—	
器具庫 （鉄骨プレハブ対応） 単価20万円/㎡として	～200㎡	～50㎡	
	～4,000万円	～1,000万円	
合計	約2億1千万＋電気計時（3,000万）	約1億2千万（電気計時無し）	

5. 陸上競技場（追加補足資料）

ハンマー・円盤投げ	費用	備考
競技用ネット	500万円	高さ5.5m、ネット二重張、移動車・防護ネット付、組立費用込み
サークル	50万円	投擲サークル
固定式ネット	300万円	サイドネット付き
その他備品等	100万円	ハンマー、円盤、測定機器他
計	約1,000万円	

棒高跳び	費用	備考
専用マット	200万円	サイズ：W6,000×D7,300×H800mm、四層構造、雨天カバー付き
マット運搬車	30万円	マットの移動・保管用
支柱・バー	150万円	電動昇降式 国際規格
助走路整備	200万円	30～40m
ピット周辺整備	100万円	
計	約700万円	

電気計時	費用	備考
フィニッシュカメラ（写真判定装置）	600～800万円	高速連写＋解析ソフト
スタート信号装置	100～200万円	電子ピストル＋同期信号
風速計（超音波式）	50～100万円	100m・200m・走幅跳用
LEDタイマー表示盤	100～200万円	フィニッシュタイム表示
記録処理PC＋ソフトウェア	100～200万円	記録管理・速報表示
配線・光ケーブル敷設工事	400～600万円	地中配線・コネクタ設置
施工管理・調整費	100～200万円	機器設置・調整・試験
計	1500～2500万円	

6. テニスコート

【方向性（案）】

- ・ 市営のテニスコートの面数の整備水準は、周辺自治体と比較すると高い方であるが、埼玉県全体の平均からはやや下回る。
- ・ 学校等のテニスコートの有効活用を図ることで、テニス愛好家のニーズをより満たしていくこととして、スポーツセンターでは、現況の6面を維持することが望ましいと考える。
- ・ サーフェス素材については現管理者等へのヒアリングなどを行い、それらの結果も踏まえて設定する。

類型	主たる目的	規格例	市内
I	・ みるスポーツの拠点 施設 ・ トップアスリートの試合などを行う施設	・ スタンド付き8面以上のテニス場	なし
II	・ スポーツを通じた国内外、多世代の交流 促進や試合・イベントなどを行う施設	・ 複数面（4面以上）を持つテニス場	・ スポーツセンター 6面 ・ 道満グリーンパーク 9面
III	・ 市民の日常的なスポーツ活動のための施設	・ 学校テニスコート ・ その他のテニスコート	・ 中町テニスコート 2面 ・ その他（市立中学校等）

区分	公共施設（学校除く）				学校		民間
	施設数	面数	人口	面数/10万人	小学校～高校・専修	大学・高専等	
全国	5,123	20,576	126,654,244	16.2	26,466	3,737	4,859
埼玉県	180	1,126	7,393,849	15.2	1,599	180	440
戸田市	3	17	141,033	12.1	不明	不明	
10～20万人自治体	745	3,415	152自治体 21,091,350	16.2	4,977	737	—
さいたま市	—	113	1,324,589	8.6	—	—	—
川口市	8	29	607,373	4.8	—	—	—
朝霞市	4	12	143,195	8.6	—	—	—
和光市	1	4	84,161	4.8	—	—	—
蕨市	1	4	75,749	5.3	—	—	—
志木市	2	10	76,457	13.1	—	—	—

出典：体育スポーツ施設現況調査
(2021年度) より

7. 駐車場

近隣自治体のスポーツ施設（体育館等）駐車場の状況

自治体・施設名		駐車場台数	料金
戸田市スポーツセンター		105 (臨時73)	無料
蕨市民体育館		25	最初の2時間200円、その後1時間毎に100円
朝霞市立総合体育館		87	無料
和光市総合体育館		172	3時間100円で、以降1時間毎に100円 障害福祉関係の手帳をお持ちの方は無料
川口市	新郷スポーツセンター	74	無料
	西スポーツセンター	77	無料
	芝スポーツセンター	70	無料
	安行スポーツセンター	100	無料
	東スポーツセンター	103	無料
	青木町公園総合運動場	108	基本1時間100円、19時から翌朝8時まで最大300円。 24時間最大500円、身体障害者手帳をお持ちの方は 全額免除（第1駐車場のみ）
さいたま市	記念総合体育館	394 (他施設込み)	3時間まで無料 3時間以上は、以後30分ごとに110円
	浦和駒場	約70	無料
東京都 北区	滝野川体育館	38	1台につき30分150円（1日の上限1,200円） 30分未満の利用は無料、ただし、30分以上利用した場 合は最初の30分についても料金が発生する。
	桐ヶ丘体育館	20	
	赤羽体育館	43	

7. 駐車場

立体駐車場について

(1) 建築条件

①自走式立体駐車場整備に係る法令

名称	内容
建築基準法	建ぺい率、容積率、用途制限、日影規制、等
駐車場法	駐車のに供する部分が500㎡以上の路外駐車場に適用。
消防法	自動火災報知機設備や消火設備の設置が一定面積以上で必要になる。
その他	

(2) 整備費用

[単価] (メーカー資料から)

1層2段 100,000円/㎡
地盤改良等が必要な場合は別費用

[概算事業費試算]

(試算条件)

- ・1台あたり約25㎡ (建築面積2,000㎡ならば 80台程度×段数)
- ・現在108台を倍の約200台分

200台×25㎡ ⇒ 5,000㎡
1層2段として整備 (建築面積 約2,500㎡)

100,000円/㎡×5,000㎡=500,000,000円

②用途制限 (建築基準法)

同一敷地内に主たる用途の建築物があり、それに付属する (建物である) 場合の制限

用途地域	制限
第1種低層住居専用地域 第2種低層住居専用地域	延床面積が600㎡以内、1階以下
第1種中高層住居専用地域 第2種中高層住居専用地域	延床面積が3,000㎡以内、2階以下
第1種住居地域・第2種住居地域	2階以下
準住居地域、近隣商業地域 商業地域、準工業地域 工業地域、工業専用地域	制限なし

赤枠で約2,500㎡

